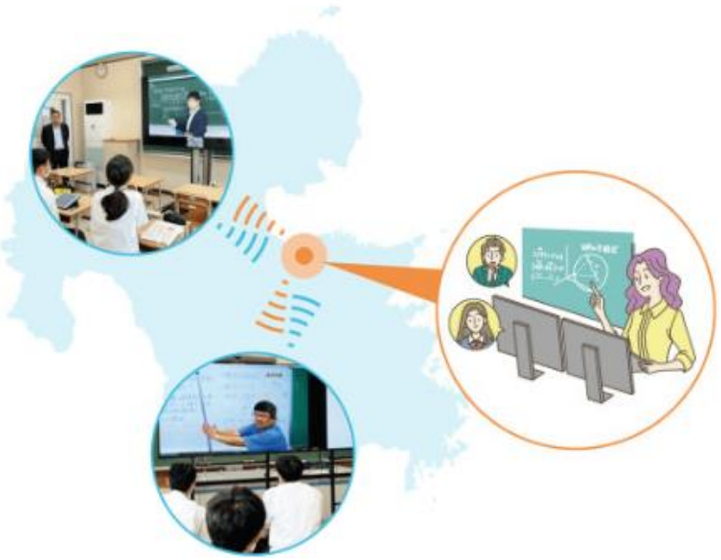
遠隔教育の「大分モデル」

県内どの地域に住んでいても、多様で質の高い高校教育を受けられる環境を整備するため、遠隔教育配信センターを開所（R7.4.14）し、「遠隔授業と遠隔による学習支援（SOP）」の両輪による「大分モデル」を確立。センターには、専任教員を配置。

遠隔授業（同時双方向授業）

実施方法：遠隔教育配信センターから授業を配信。２校合同（各高校10名程度）。
対象校：　地域にある普通科設置高校を中心に段階的に遠隔教育を導入
※令和7年4月からは４校（臼杵高校＋宇佐高校、佐伯鶴城高校＋日田高校）で先行実施
対象学年：２年生・3年生の理系選択者のうち難関大学を志望する生徒
※各校において導入初年度は２年生のみ実施
配信教科：数学（一部の科目）、英語（一部の科目）、理科（物理・化学）
※理科は、各校において導入２年目以降の３年生で実施



遠隔による学習支援（SOP（＝生徒進学支援オプション））

対象：大分県内の普通科等設置校（28校）の生徒（学校に加え、自宅でも受講可）

SOP１ 夏休みの特別授業（難関大等志望者向け特別授業をリアルタイム配信＆アーカイブ配信）
SOP２ オンデマンドによる動画教材配信（大学入試過去問題演習など）※遠隔授業受講生徒は、通常の遠隔授業動画の振り返りも含む

対象：遠隔授業受信校の遠隔授業受講生徒のみ

SOP３ １対１生徒個別指導（生徒一人ひとりの志望や定着度に応じた個別添削指導）
SOP４ オンライン課題配信（授業内容の定着を図る補充問題や発展的な問題の演習）
SOP５ 動機付け・意識改革（大学教授や同じ環境から進路目標を達成した先輩による講話、ワークショップの開催）
SOP６ オンライン面談（センター専任教員との個別面談（授業中の疑問点を解決するための教科における個別相談など））

遠隔教育一体型機器で生徒は同じ教室内に、教員がいるような感覚で授業を受けられます。

授業を行う教員の前にもモニターが設置され、生徒の表情や反応を見ながらコミュニケーションを取ることが可能です。